

# Sunny after the rain



## The character of space depends on the weather

### Concept

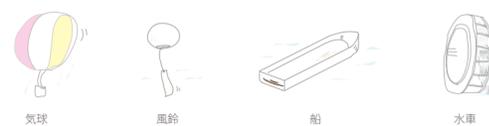


自然には変化がある。  
朝、陽が出て、夜、陽は沈む。春には花が咲き、冬には枯れる。  
風鈴は風の流れを音に変え、水車は水の流れを力に変える。  
このように、自然の変化に連動することによって、そのものの本質を成り立たせること。  
それが「自然と呼吸する」として考える。

今回、自然の変化の中で、天気の変化に着目する。  
私たちの生活は、日々天気の変化を意識していると考えます。  
晴れの日には洗濯物を干し、散歩に出かける。雨の日には傘をさし、水たまりを避けて歩く。  
人々の行動や精神は、無意識のうちに天気の変化に呼吸している。  
「今日は天気がいいから」、「雨が降っているから」といったように、天気は人間の行動と密接な関係にある。

よって、本計画では天気の変化に連動し、空間の質が変化する建築の提案を行う。  
晴れの日には、影によって空間が分節される。曇りの日は、開放的な大空間となる。  
雨の日には、雨の壁によって、空間内に弱い仕切りができる。天気によって変化する空間と呼応して、人間の使用方法も変化する。このような特性を活かし、幼稚園の設計を行う。

### Concord



自然の変化とともに、変化していくもの。それが自然に呼吸すること。

### Diagram



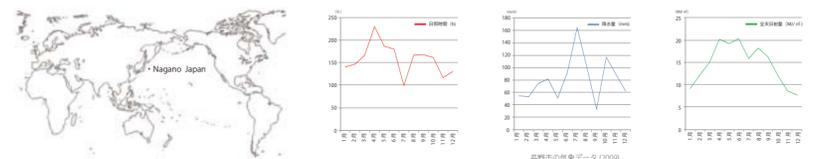
大きな自然としての天気。日々変わる天気が空間を操作する。

### Image



シェルターとしての建築は、自然を遮断し、コントロールすることで、人工環境をその中に入れてきた。その定立に亀裂を入れるような大きな自然は空間を構成する一要素として建築と共生をはかる。

### Expansion Possibility



本計画では長野市を対象とした。長野市は比較的日照時間が長く、日射が強い。1日の影の伸縮、濃淡が多様であり、降水量が少ないため、雨の日には空間は特別な空間になるだろう。本計画は、季節や計画地によって空間の質が異なる。日差しが強い夏には、光の反射でプリズムができたり、柱のない空間に、水蒸気の柱ができる。冬には屋根に落ちた霜や雪によって、光が拡散される。日本のように四季の変化がある空間では、1年を通して空間は変化する。スクールのある地域では、1日1回空間が変化する。



屋根から落ちた影がつくる領域



グラウンドのような空間で影踏み



雨のカーテンで分節された室内



外部と連続する雨の空間

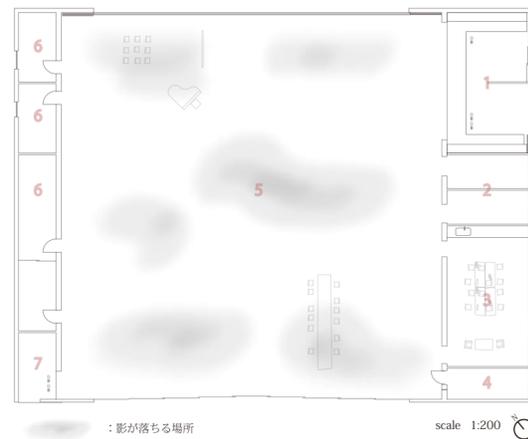


晴れの日。

影は、フラットな空間のなかに視覚的な領域を作る。時間変化に伴う影の伸縮により、領域が拡張する。また領域がつくれる場所も変化する。その領域は、日差しの強さによって強度が変化し、ある時には再び体育館のようなフラットな大空間が生まれる。



天気 曇り 晴れ 快晴  
領域度 0% 30% 70%

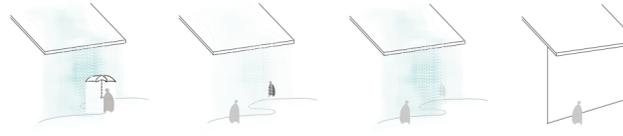


：影が落ちる場所 scale 1:200

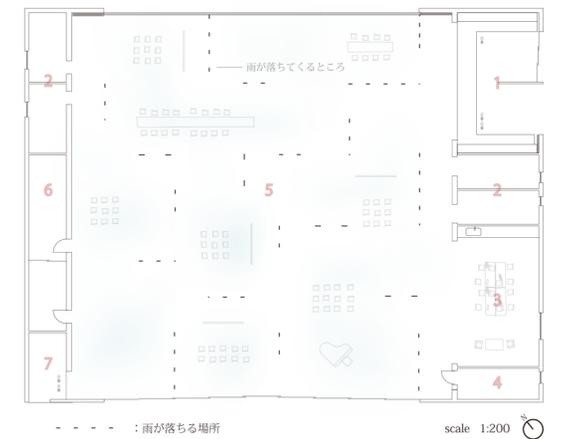


雨の日。

雨は、フラットな空間を分節する弱い境界を作る。雨による物理的な境界は、その強弱に比例して、境界の強度も変化し、障害物によって一度に消すことができる。同じ場所でも、天気の変化に空間が呼応することで、多様な場面を作り出す。



境界 傘 少雨 多雨 壁  
境界度 0% 30% 70% 100%



：雨が落ちる場所 scale 1:200  
1:entrance 2:toilet 3:teacher's room 4:teacher's toilet 5:class room 6:shed 7:tradesman's entrance

Space cycle



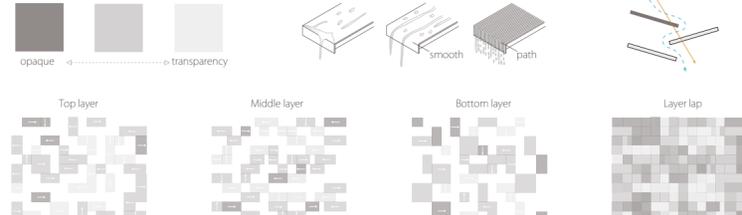
AM 7:00 快晴 登校前の教室  
AM 10:00 快晴 小さな領域が浮かび上がる  
AM 11:00 快晴 影の垂なりで領域が拡張  
PM 0:00 晴 正午。真上から降り注ぐ光が多数の領域を作る。  
PM 1:00 曇り 曇りとともに空間は一気にフラットな体育館に。  
PM 2:00 雨 雨が強い境界となり、空間を分節する  
PM 3:00 晴れ 水の蒸発が、曇気様のぼやけた空間を作る。

Site



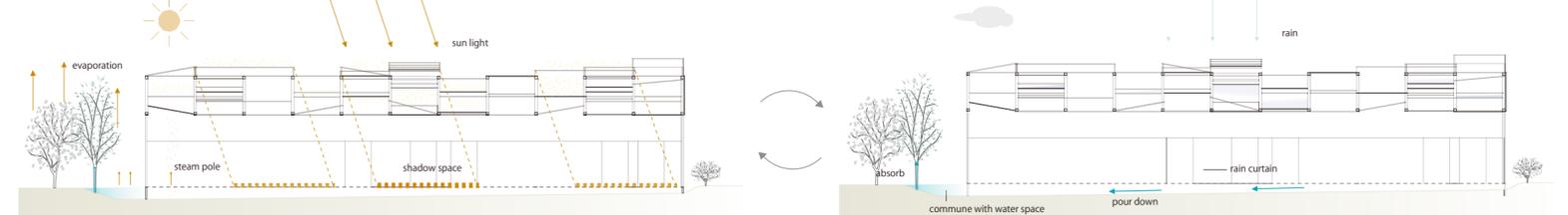
長野県東口から約 500m 南へ進んだ敷地。ここに、天候と呼応した幼稚園を提案することで、この地にみられる自然の変化を空間に映し出す。

Loof



透明度の異なる 3 種類の屋根を使用し、雨のカーテンが生まれやすい仕上げとする。これらの屋根を 3 層で構成し、影の濃淡をつくり、水の勢いを殺ぐ。また、スタディ結果から、屋根の角度は 15° 前後とし、最下層の屋根に取束するような方向性をもって

Main Cycle Diagram



晴れの日には水蒸気が蒸発して、雲ができ、やがて雨が降る。そういった循環作用の中に建築を挿入する。雨は水のカーテンとなり、内部空間をやわらかく分節し、穴があけられた床を抜け、一か所に集められる。そこは親水空間となる。日差しは、屋根に残った水滴や親水空間によって反射され、キラキラした空間をつくり、蒸発させる。このように、循環作用の中で、建築は天候の変化に呼応して、空間の質を変化させる。

